

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500065		
法人名	医療法人社団 孔和会		
事業所名	グループホーム 桜ん里		
所在地	熊本県天草市河浦町白木河内116-1		
自己評価作成日	H23年12月3日	評価結果市町村受理日	平成24年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.in/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=4391500065&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	H23年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型事業所として地域に根差したいとの思いで地域行事の企画から関わりをもつことが貢献にも繋がると考え小組合に入り活動をおこなっている。また敷地入口には理念をフェンスに掲げて地域の方々にも見えるようにしている。この理念を支えているフックは地域の方の手造りでもあり、地域住民の方々を支えられている。そして、認知症介護実習施設としてまた、インターンシップ受け入れを行うことで事業所のケアの振り返りやケアの再確認を行い質の向上を目指している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、利用者に対して質の高いケアの提供をしたいと考えており、職員へも日常ケアについての気づきを指摘するが、指導という形ではなく「あなたはどう思う？」という投げかけによって、職員の意識向上を促している。これは、理念の「今を心地よく 私が私らしくあるために」、どう接したらいいかを常に考慮した取り組みへの配慮と思われた。職員もそれに応えて、理念に沿った目標を掲げ、対応の具体策まで話し合っている。又、「桜ん里」を施設としてとらえるのではなく、河浦町の「白木河内」という小組合の民家と同じ一員であるとの考えで、積極的に地域に働きかけており、地域住民との交流も活発になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を壁に掲示することで、業務中にも職員が目を留め振り返ることができるようにしている。また理念に添った関わりができていくか話し合う時間を設けている。	過去よりも「今、この時」を利用者がその人らしく過ごしていただいているかを常に意識し、「今を心地よく 私が私らしくあるために」という理念が掲げられている。月2回のケースカンファレンスで、「仕事本位にやっていないか」「その人らしい対応はできているか」等の話し合いを行ない、職員に理念の浸透を図って、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の神社の清掃、地域行事への参加はもとより今年度は地域の小組合へ加入し企画の段階から地域の一員として動いている。また当施設の季節行事等にも声掛けし、地域の方々の参加を促している。	開設4年目を迎え、地域の一員でありたいとの考えから積極的に地域に働きかけて、小組合の加入を申し入れている。地域行事には、準備の段階から参加することで職員も地域の一員であるという意識を高め、施設への理解が得られている。最近では、近隣から葉ボタンの苗の提供や野菜の差し入れがあったり、施設行事に招待する等、地域交流がスムーズに行われるようになってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の正しい理解を得てもらうため、地域での認知症サポーター養成講座や家族介護教室を開催するなど、認知症についての情報を発信したり知識の習得の啓発を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に運営推進会議を開催し、日常の様子等の報告や検討議題に対して、意見をいただいている。その頂いた意見をサービスの向上に反映するよう努めている。また桜ん里での行事等へ参加していただき、入居者の方々との交流を図っている。	推進委員は、区長・老人会長・婦人会代表・地域消防隊長・民生委員・地域振興会長・元教師・元行政職員・地域包括・家族代表等、多様なメンバーで構成されている。会議は、施設からの一方的な運営内容や行事報告にとどまらず、各委員の意見を引き出し、運営に活かそうという努力が見られる他、避難訓練への協力や各種行事の参加について、活発な意見が出されて施設運営に反映されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	天草市とはメールで情報の共有と報告など行っている。また直接電話でもやりとりを行っており運営推進会議へ出席してもらい意見をいただいている	行政には、運営推進会議開催後、報告を行っているが、意見や質問は見られなかった。尚、3か月に1度開催される「グループホーム連絡協議会」への参加もあるが、活発な意見交換の場とはなっていないようである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで各居室に鍵は設置されていない。 また入居者の方々の意思を大切に、自由に行動していただき、制限しないよう心掛けている、身体拘束の研修開催	沈み込むソファ、椅子の肘掛をテーブルに押し込む、薬で眠らせる等、身体拘束とみられる要因の排除の為、支えのクッションの工夫や、夜間不眠の人へは、無理に眠らせなくてもいいという柔軟な考え方で接しており、常に制限しないケアに取り組む姿勢が伺えた。徘徊についてもサインを見逃さない気づきのケアを心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会へ参加。また法人全体でも勉強会を行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や法人での勉強会に参加することで知識を深めている。実際に利用されている入居者の事例をもとに説明して理解を深めてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書、重要事項説明書を用いて説明する為時間を要することをお伝えして一つ一つを細かく相手の反応を見ながら説明し、十分に納得していただいたうえでサイン捺印して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回4月に花見としての家族会、その他年に2回座談会形式の家族会を開催し、ご家族からの意見を頂いたり、スタッフとの情報交換を行ったりして入居者の方を支えることを共に考えている。	管理者は、利用者が一番待っているのは家族だということを理解してもらおうと、単に広報紙や請求書を送ったり、状態変化時に連絡するだけではなく、普段の話が出来るようにコミュニケーションを密にしている。家族会案内についても、遠方の家族に墓参りを、家族会に合わせて来訪して欲しいと伝える等の呼びかけで、家族の意見を聞く機会が多くとれるような働きかけをしている。	家族からの意見や要望は出にくいようなので、家族会では、家族だけで話し合う時間を設け、率直な意見を聞き出す状況を作るのも良いと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、部署会議、ネットワーク会議、5事業所会議等で疑問や提案等をおこなっている	職員は、①. 地域との連携(地域に向く) ②. 家族と職員の交流を図る ③. 認知症についての理解を深める(自己研鑽)と、3つの目標を掲げ、その実現に向けた具体策を検討し、利用者中心のケア実践へ様々な意見やアイデアを出している。運動会の表彰状や、音楽療法の一つとして地域も巻き込んだ「のど自慢大会」を開催。スタッフの家に眠るバザー用品を持ち寄り、賞品や参加賞に充てる等、喜んでもらう楽しい工夫が見られた。管理者は職員からの意見や提案を、法人の会議につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事評価と個人面談を行い、目標を自分で立案し自己研鑽して達成につなげている。面談は都度行い現状の課題解決やストレスの度合いが把握できてモチベーションアップに役立て居る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修、また法人外での研修の情報を職員へ提供し、参加を促している。また、資格取得への援助も積極的に行い、試験対策等の勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部からの見学、訪問等継続し、ネットワーク作りを促している。また認知症介護研修の実習施設として、実習生の受け入れを行うことで、情報の交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	定期的なカンファレンス以外にもアセスメントシートを活用し、コミュニケーションを図りながら情報をスタッフで共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会以外にも手紙、メール、電話等でコミュニケーションを図り、意向を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前訪問をしてご本人ご家族との聞き取り(基本情報入手)を行ったうえでのサービスを展開している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の気持ちを聞きながら、常に理念を意識して本人の思いを尊重し、時間、空間を共有しながら過ごすようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は普段のグループホームの様子をご家族にお伝えしたり、ともに外出したり、ご自宅へ行ったりと家族の思いを聞きながら家族を巻き込んだ本人との関わりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事に参加して地域の人たちと声かけをしたり、されたり、本人が、地域の一員であることを感じていただく支援をしている	介護度が高くなり、馴染みの人や場所との係わりが少なくなってきたが、本人をよく理解してくれる美容室での会話を楽しんだりしている。尚、敬老会参加で馴染みの人と会う機会を作ったり、懐かしい場所へ「ほたる」を見に行く等の、努力も伺えた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	台所、洗濯物等各自の個性が発揮できるような役割をもってもらいお互いに話し合いながら動きができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時や他施設への入所時には、情報提供を行い職員の思いを書いた色紙をもち面会や訪問に行き、関係性の継続に努めている。家族に労いの声かけも忘れずにおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報としてセンター方式の活用を行いご本人の意思を確認している。また困難な場合はひもときシートを活用してカンファレンスをおこない、ご本人の希望に添えるよう努めている。	思考展開シート「ひもときシート」に書き込まれた具体的な訴えや不穏状態の記述から導き出して、今、その人が何をしたいのかを把握し、思いや意向に応えられる体制が整えられている。帰宅願望の強い利用者には「帰れない」という不安解消の為、「帰れますよ」という安心感を与え、家族にも理解を求めて、毎日曜日に一時帰宅する利用者も見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	知るためシートを活用したり、家族や親類の情報を得たり、地域住民に情報を得ながら必要な情報把握に努める。カンファレンス等で担当に情報提供する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録から現状を把握して介護計画でひと月ごとに担当が評価してカンファレンスにかけてスタッフ全員で検討している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で本人の思いを知り、家族との面談等でケアの方向性を確認して、カンファレンス、ミーティングで情報や提案を出し合い、介護計画を検討して作成している。	利用者の生活歴は介護対応の引き出しと考え、家族聞き取りを十分に行い、管理者・計画作成担当者が、介護計画を作成している。ケアカンファレンスは3か月ごとに行い、具体的なかわりを、○・△・×で示し、コメントを添え、次につなげることで本人の介護レベル低下をおさえている。また、家族にも必ず、ホームでの介護のプロセスを説明し、現状を理解してもらう努力が見られた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はSOAPを用いて記録を残し、特にアセスメントを重要視して介護計画書にリンクさせてケアプランの作成、活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望を聞き、家族とも相談をしながら、外出、外泊等、ご本人の希望に添えるよう努めている。必要時はスタッフの付き添いも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園、小、中、高校生交流会や地域ボランティア団体の歌や楽器の演奏会、月見会、そうめん流し等で交流を図り、本人の精神安定に繋げて、日々の暮らしの楽しみの一つになるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回内科医の訪問診察と月に1回眼科医の訪問診察を行っている。状態によっては家族の同意のもと訪問看護とも連携をして体調管理を行っている	法人の院長が内科医、副院長が眼科医なので利用者は訪問診察を受けている。急な発熱、転倒などの場合は、家族に連絡した上で基本的には家族付き添いであるが、依頼があれば職員が同行する。他に、認知症、精神障害の専門医受診の利用者もあり、定期的な受診で状態の安定が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、異常時には素早く看護師に報告できている。またスムーズに受診、看護できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人が入院時には桜ん里の生活状況の情報提供を行い面会に行ったり主治医との情報交換を行い安心につなげている。退院時には病院からのサマリー(情報提供)もらい職員に周知を行い桜ん里入居生活の安心につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人が身体面での重度化した場合家族に方向性の確認を行い、主治医と相談して事業所としての方向性を示し連携機関に報告する。家族とは繰り返し意思の確認を頻回に行い家族や医療関係者(訪問看護)等とチームで支援している	施設では看取りを行う方針で、入所時に家族と十分話し合い、看取りに関する同意書を取り交わしている。これまで看取りの経験を1度持ち、全職員で対応を話し合い、課題を引き出す等貴重な体験としている。また、理念に沿ったその人らしい看取りについてアンケートを取り、勉強会を重ねて真摯に取り組みへの対応が伺えた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	意識のない人や人工呼吸法等を法人内で定期的な勉強会や研修を通して訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回定期的に防火、防災、避難訓練を行っている。また、地域に呼びかけし、訓練に参加していただいたり、地域の方も含めた連絡網やハザードマップ作製して協力体制を築いている。	職員の緊急連絡網を使い、運営推進員の協力を得ながら夜間想定避難訓練を実施。消防署から「全く出来ていない」との厳しい指摘を受けながら、地域との合同訓練を実施。更に、推進会議では、問題点を話し合う等、地域を巻き込んだ災害対策を講じている。なお、各居室入り口には、災害時、救出優先順を示すピンク、ブルー、グリーンのカラーパーパーで作った花を、ピンナップするという工夫も見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しながら、トイレ誘導時には耳元で小さな声で話したり、ジェスチャーでお示ししたり、トイレ内では転倒の危険がない限り一人で排泄していただくようにしている。方言をまじえた言葉かけにしても最後は丁寧語をつけるようにしている。	居室に入る時は必ずノックし、トイレ誘導時は声のトーンに注意し、入浴時は目線に気をつけてタオルを掛ける等、身を置き換えた対応でのケア実践となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を尊重し何をされたいのか聴いている。また大声で不満を言われる環境を創っているが長く同じ訴えがないようにしている、おやつ飲み物でも本人に決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ソファで過ごされたり、自室でお茶を飲まれたりと、それぞれの希望を尊重し自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散歩時、外出時など季節に合った洋服、帽子等を本人と一緒に決めて、ご本人のお気に入りのスタイルでおしゃれしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むき、具材切り、味付け等、入居者の方々がそれぞれできることを一緒に行うことで、食事を楽しみにしていただけるよう努めている。	法人の管理栄養士が作成した週毎の献立を基に、利用者の嚥下状況に合わせた食事が提供されている。訪問時、うどんに入れるねぎを刻む利用者を見守るスタッフや、その日の体調・気分食欲がない人には、無理に食べさせない自然な対応が見られた。夏場、地域の人達や通所利用者も参加するそうめん流しは、楽しみの一つになっている。また、回転すしや、ファーストフード店での外食等に出かけ、利用者の食べる喜びや意欲につなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの好みを把握し、食事が入りやすくなるような工夫をしている。水分もその都度飲みたいものをお尋ねし、摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人のお力で無理な時は介助するなど清潔保持に努めた口腔ケアを行っている。また、口腔ケアの道具もそれぞれの状態に合わせて変えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助にて立位保持ができない方以外は、リハビリパンツや布パンツを使用いただき、トイレ誘導、介助を行っている。	介助は必要だが、自立している人が2名。落ち着かない動き等で気配を察知する等、トイレへの誘導を心掛けている。かぶれ防止の為、尿とりパット付き布おむつを使用する等、利用者に不快感を与えないような工夫が見られた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄チェックを行い、個々のパターンを把握している。またパターン通りに排泄がない方へは、オリゴ糖などを飲んでいただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いせず、入浴したいときに入っていたが表情で判断したり、入浴したくない原因を追及して入浴に繋げている。	入浴は隔日になっているが、皮膚疾患等がある場合は毎日の入浴で早期治療を心掛けている。入浴拒否は落ち着いて理由を聞き、納得して入浴してもらう配慮が見られた。入浴への不安や、職員の負担軽減の為、リフト浴が備え付けられ、入浴支援にゆとりが出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で一人で休むのが不安な方等へは、スタッフが添い寝をしたり、見えるところで安心して休めるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をすぐに確認できるよう個人カルテへ綴っている。また、内服薬変更時には必ず申し送り、スタッフ全員へ周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物が好きな人には家族と相談して金額設定してデパートまで買い物行き選ぶ楽しみやお金を払う力を出す機会をもってもらい支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	介助が必要で自宅へ帰ることが困難な方も、お盆や正月等、家族から希望があればスタッフが付き添い、自宅へ帰ることができる	近隣への散歩や家族との買い物等、日常的な外出支援に努めている。季節毎に、菖蒲見学や紅葉狩りには家族にも参加を呼び掛け、一緒に過ごす時間を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に出かけたり、八百屋さん、パン屋さんに定期的に来てもらい好きなものを買っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話したいと言われた時には電話行い会話していただく。遠方におられる家族には定期的に電話し、情報交換し、ご本人とも会話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローアやトイレに季節の花を飾ったり、お花が好きな人には居室に飾ったり、浴室には寒くないよう暖房を入れたり工夫している。光が眩しい時はレースのカーテンをするようにしている。	玄関を入るとワンフロアの共有空間があり、ガラス戸越しの陽当たりのいい場所で、日向ぼっこをしている人、ソファで横になっている人、職員とおしゃべりに興じている人、高床式の畳の間で洗濯物たたみをしている人等、利用者は思いのまま、くつろいでいる光景が見られた。理念にあるように、今を心地よく、その人らしく過ごしていることが実感された。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は決めたりせず、好きなところに座っていただいているが話し好きな人と聞き上手な人と隣同士にするなど工夫している。新聞を読まれる日課のある方にはフロアで読んでいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などは自宅で使われていたものを使っただけでいただいている。また各担当が居室へ写真を飾ったり、環境の整備に努めている。	広い廊下の両側に居室が並んでおり、畳の部屋、フローリングの部屋と、利用者の状態や希望にあわせた居室になっている。自宅では、いつもコタツで過ごしていたという利用者の部屋には、コタツが置かれ安心と落ちつきがもたれられている。全体的にはシンプルな居室が多いように感じられたが、清潔感があり、家族のセンスが伺える小ぶりのソファセットが置かれた部屋等、それぞれの「私の部屋」づくりがみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに「便所」と表現したり高さも低い位置に表示するなど工夫している		